

INDEX

- 1 総論
- 2 自動車
- 3 電子部品
- 4 環境
- 5 素材
- 6 化学
- 7 医薬
- 8 商社

国連によれば世界人口は2011年10月に70億人を突破したと推計されている。そして実にその約5割を占めるのがアジア。「世界の工場」といわれた中国で見られたように、これまででは割安な人件費を利用した生産基地としての役割が強かったが、今では経済発展に伴って購買力が向上し、市場も拡大。新たな成長市場としてインドネシアやベトナム、さらにはミャンマーなどに対する注目度も高まり、日本企業の中でも域内市場の商品開発、ブランド戦略、物流、研究開発などの基地を、地理的な優位性に加え優遇措置の手厚いシンガポールなどに置く事例が目立ってきた。

アジアは確実に巨大市場へと変貌を遂げつつあり、21世紀は勃興する「アジアの時代」を迎える。

うとしている。一方で、尖閣諸島問題や労働争議などをきっかけに、日本政府に対するデモや反日運動、現地日系企業での過激なストライキなど困難な事態に直面しているのも事実。

これらの問題を解決に導くのは容易ではないが、拙速な対応は将来に禍根を残しかねない。歴史に学びながら、それぞれの案件に一つひとつ丁寧に対処していく理性と知恵が求められるだろう。

日本にとって21世紀は「アジアと共生する時代」でもある。相手国やパートナーとともに、繁荣の果実を分かち合う未来志向の関係を築いていく努力もまた、アジアの先導役・日本に課せられた責務といえる。



アジアとともに 未来を切り拓く 日本企業

日本企業の進出意欲が
まるミャンマー(台湾系
の縫製工場)



左石油精製施設が立ち並ぶシンガポールのジュロン島(ブルームバーグ)
上バングラデシュ工場での電子部品実装ライン

世界中で、 Challenge and Innovation Around the World 挑戦と創造。



最前線へ。

無限の可能性を求めて、新たな未来を切り拓く。